

2014年2月28日

1. JICA 事務所のローカルスタッフへの講義

JICA スーダン事務所に採用されたスーダン人スタッフ 5 名が 2 月 5 日に DWST を訪問しました。JICA のスーダン人スタッフについては、これまでプロジェクト担当者が DWST を訪問することはありましたが、今回のように 5 名が同時に DWST を訪問することはありませんでした。そのため、上村専門家は JICA スーダン事務所の要請を受けて、5 名のスタッフに対して本プロジェクトに関するプレゼンテーションを実施しました。その後、関係者は DWST 内の各研修施設とキロテン研修センターを訪問しました。



2. ミニバスの機材検収

本プロジェクトにおいては、1年次よりパイロット州やエル・ゲジラ州の研修センターにおいてジョイントセミナーを開催してきました。そして、次回5回目のセミナーは北コルドファン州水公社の研修センターで4月に開催予定です。毎年12月にはモロッコから専門家を招聘している他、DWST の研修においてハルツーム近郊で実務研修を実施する機会が増えています。

このような現状下、研修生や関係者の移動手段の確保は常に大きな課題でした。そのため、本プロジェクトの3年次にはミニバス1台をDWSTに供与し、様々な活動に使用することとしました。ミニバスは2月2日に納入され、同日に機材検収が実施されました。



3. モニタリング会議

DWST においては佐藤専門家が帰国する前日の 2 月 5 日にモニタリング会議を、また、2 月 25 日には国際機関を巻き込んだモニタリングセミナーの開催に関する協議も実施されました。

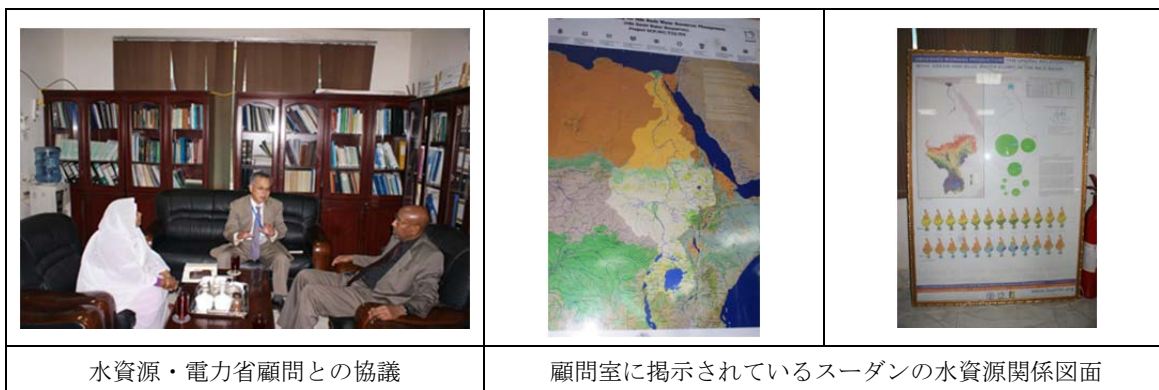
本プロジェクトにおいては PDM にモニタリングが重要な指標となっているものの、実施機関である DWSU にはモニタリング部署が未だに設置されていない状況です。このため、中間レビューでは、早急なモニタリング部署の設置とそのための活動が提言されました。それまでスーダン側にはモニタリングに関する危機意識は殆ど醸成されていなかったのですが、中間レビュー調査団から提言されたことから活動が本格化しています。



4. 水資源・電力省との協議

本プロジェクトの実施機関は DWSU であり、DWSU を管轄する中央省庁は水資源・電力省です。しかしながら、2008 年に日本の技術協力プロジェクトが開始されて以来、水資源・電力省と協議した回数は 3 回と非常に少なく、また、担当大臣が研修センターを訪問した回数も 3 回と、情報交換が極めて少ない現状にあります。そのために、DWST の研修センター長は水資源・電力省で水資源部分野の最高責任者である Selfildin 博士に面談を申込み、この面談は 2 月 10 日に実施されました。

上村専門家は博士に対して、DWST 及び州レベルで水分野の人材育成が比較的順調に推移していることを述べ、人材育成はあくまでもプロジェクトやモニタリング及び各種管理を実践できる人材の育成を目指しており、同時並行した給水プロジェクトや水資源開発プロジェクトの実施の重要性を説明しました。



5. モロッコ研修の準備

3回目の研修はモロッコ南部のアガディール市を拠点に、ここで水資源管理、村落給水施設の維持管理、節水灌漑、下水再利用及び海水淡水化に関する研修を実施する予定です。参加する研修生は10名で、DWSU、北部州、ナイル州、紅海州、エル・ゲジラ州、ゲダレフ州ハワタプロジェクト、センナール州、白ナイル州及びカッサラ州より2名が参加します。

今回の研修はカッサラプロジェクトと連携して実施するもので、2012年の研修に続き2回目となります。2月には各州に対する研修案内、パスポートの申請、航空券の予約、カッサラプロジェクトとの研修費用の分担等の作業を実施しました。

なお、3回目の研修に参加する研修生の一覧は写真に示すとおりです。

			
01 Ms. Tasneem Mohammed Al BABEKR	02 Mr. Ahmed Fathi Obaid SALM	03 Mr. Khalid Abdallah Saeed FADALLAH	04 Mr. Osman Hamid Osman HAMED
Drinking Water and Sanitation Unit Training Centre	Northern SWC	River Nile SWC	Red Sea SWC
			
05 Mr. Sami Omer Elamin MOHAMED	06 Mr. Daballa El Tayeb Mohamed MASOUD	07 Mr. Ammar Hassan Rahamtalla MOHAMMED	08 Mr. El Tayeb Kabashi Abdallah BRAHIM
El Gezira SWC	Havata Water Corporation	Seamar SWC	White Nile SWC
			
09 Mr. Muabaz Hassab Elrasoul Abdalla MOHAMMED	10 Mr. Abdalhamed Hamed Mohammed Hassan AHMED	11 Mr. Tawq Hassan Mohammed BUKHARY	12 Mr. Mitsuru UEMURA
Kassala SWC	Kassala SWC	Project Coordinator	JICA Expert

6. 井戸管理研修

大鹿専門家の井戸管理研修は1月19日から白ナイル州のAl Kawa村井戸(1/19~2/9)で実施されました。この研修により、大鹿専門家の井戸管理研修は終了しました。パイロット州では2年次から現場での井戸管理研修が実施されてきており、これまでパイロット州の10本の既存井戸が改修されてきました。井戸管理研修の評価は回数を重ねるたびに高まっていることがわかります。

パイロット州側は日本人専門家が帰国中であっても、研修で習得した技術と機材を活用して独自にウォーターヤードの改修工事を実施する意向を示しています。



7. 機械管理研修

白ナイル州において、2月9日から20日にかけて、第2回機械管理研修が実施されました。研修では民間の機械加工工場の見学、ディーゼルエンジンの整備、コンクリート基礎作製、高架タンクスタンドの作製などを行いました。高架タンクスタンドの作製においては、図面を基にした部品の作成作業や、測定の重要さを確認できる内容とし、研修生は溶接機などを用いて、鉄材から物を作る作業を経験しました。また、このスタンドは研修施設内に設置され、今後タンクが載せられる予定です。



8. 浄水場維持管理研修

センナール州において、第2回浄水場維持管理研修が10日間に渡り実施され、白ナイル州においても2月23日に同研修が開講しており、3月8日に修了する予定です。

第2回浄水場維持管理研修では、各施設の設計手法を学ぶことを目的とし、大学や砂糖工場等の民間セクターから講師を招へいし、質の高い講義を実施しています。本研修には、センナール州から8名の研修生が参加しました。研修コースの評価としては95%が満足しています。スーダン側の貢献度としては、87.1% (第1回は81.1%) と徐々に向上しています。

センナール州での研修準備は、コースコーディネーターを中心に行なわれていますが、アシスタントの関与が薄く、責任感に乏しいことが課題となっています。そのため、コースコーディネーターへの負荷が過大となっており、今後はアシスタントへの作業分担を増やし、より責任を持たせることが課題であると考えられます。

		
<p>研修準備打ち合わせ</p>	<p>研修準備打ち合わせ</p>	<p>浄水場維持管理研修開講式(白ナ</p>

(略語説明)

DWSU : Drinking Water and Sanitation Unit (飲料水・衛生局)

DWST : Drinking Water and Sanitation Unit Training Center (飲料水・衛生局研修センター)

JCC : Joint Coordination Committee (合同調整委員会)